



第14号

2018.12.14

主な内容

就任のご挨拶	理事長 田宮 強志…… 1	身近な社会資本の見学会 新潟地域振興局 地域整備部長 山ノ内 久…… 3
退任にあたって	前理事長 鈴木 政義…… 2	にいがた「道」フォトコンテスト…… 5
にいがた地域創造センターに御期待します	新潟県土木部技監 宮野 岳…… 2	活動状況報告…… 6
		河川情報モニター実施報告及び 都市公園情報モニター実施報告…… 7



## 就任のご挨拶

理事長 田宮 強志

記録破りの猛暑、豪雨水害、台風、地震と災害続きの平成30年も押し迫り、空を飛び交う白鳥の鳴き声も懐かしく冬の寒さが身にしみる季節となりました。会員の皆様には日頃よりにいがた地域創造センターへのご理解とご協力を頂きまして、心から感謝申し上げます。さて、私こと、このたび理事会にて鈴木理事長の後任として新理事長の役を仰せつかることになりました。にいがた地域創造センターは建設技術の知識を活用し自ら社会貢献活動を行うとともに、他の団体とも連携し地域の活性化に寄与することを目的に2002年に設立されました。この16年間の当センターの社会貢献活動の役割と重要性に身が引き締まる思いではありますが、会員皆様と協力しながら当職を勤めさせて頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

当センターでは、これまで行政と連携し様々な活動を行ってきました。「河川情報モニター」や「都市公園モニター」は当センター会員が持つ技術や行政の豊富な経験に加え、モニターとしてのノウハウの蓄積で当センターの特徴を活かした社会貢献活動と位置づけております。建設産業は地域の安全安心で快適な暮らしを支える活動を担い、定住のための職場を提供する本県基幹産業です。しかしながら、少子化と建設産業への理解不足や3Kイメージなどに加え、高齢化による退職者の増加と新規入職者の不足により、将来の担い手確保が大きな課題となっております。「身近な社会資本の見学会」は新潟県からの委託で将来の建設業を担う高校生を対象に地域を支え暮らしを守る「土木」の魅力と重要性を実感してもらうことを目的に実施しております。特に山の下閘門排水機場での通船川と信濃川との2mの水位差の乗船体験は、貴重な体験になると思います。少しでも多くの高校生が建設産業を職業として選択する契機となるよう、今後とも重点的に取り組みたいと思います。今、新潟県の活力低下、人口減少は全国はもとより隣県と比較しても本当に深刻な状況だと思います。本県一の繁華街として歌にもなり、若者であふれた新潟市の古町もかつての面影は全くありません。まばらな歩行者も多くはお年寄り、閉めたままの錆びたシャッターが目立つ商店街。そのような中、今年には新潟県内政界に大きな転換がありました。元新潟県副知事で政権与党の支援を受けた花角知事、元自民党参議院議員で元国交相政務官の中原新潟市長が誕生しました。本当に久しぶりに（空白の13年？）国、県、新潟市が真に連携し政策の実現に一歩でも近づける状況が出現したと思います。本県の活性化、人口減少の歯止めに向け、官に任せるだけでなく官民一体となってこの大きなチャンスを活かしていかなければなりません。当センターも様々な社会貢献活動を通じ、一端を担っていければと思います。

会員の皆様には、一層のご支援ご協力を賜りますことをお願いいたしまして就任のご挨拶とさせていただきます。



## 退任にあたって

前理事長 鈴木 政義

平成28年度から2年間、山岸理事長の後任として当センターの運営に携わってまいりましたが、このたび理事長を退任させて頂くことになりました。

この間、会員の皆様を始め多くの方々から、多大なご支援ご協力を頂いたことに深く感謝申し上げます。

当センターの活動としましては、河川情報モニターや都市公園情報モニターなどの基幹的な活動から「身近な社会資本の見学会」や「地域懇談会」などセンターの独自性にも着目した取り組みなどを進めまいりましたが、それぞれの活動が定着し、その役割が、年々明確になってきていると感じております。

しかし、最近、日本各地で大きな自然災害が発生しており、新潟県においても、鳴りを潜めている大規模災害が、いつ起きてもおかしくありません。また、これまで地域の生活を支えてきた建設産業は、高齢化や担い手不足等に直面しており、今後の事業継続が大きな課題となっております。

これらの課題にも応えつつ、当センターが、新潟地域の活性化に向け、「会員一人一人が持つ建設技術の知識」を活かして、さらに発展していくことを願いまして、退任の挨拶といたします。



## にいがた地域創造センターに 御期待します

新潟県土木部技監 宮野 岳

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

今年度に入り、大阪北部地震、西日本を中心とした7月豪雨災害、台風21号による暴風雨・高潮災害、さらには北海道胆振東部地震など、「数十年に一度」「想定外」と言われるような災害が連続して全国各地で発生しました。土木部では、7月豪雨の被災地である広島県に緊急仮設住宅建設業務支援のために職員を派遣したのをはじめ、9月から岡山県に、そして、地震で被害を受けた北海道には12月から、それぞれ災害復旧業務支援として来年3月末までの予定で職員を派遣しています。

本県では、災害発生時に迅速かつ的確に対応するため、関係機関、団体等と連携し、公共土木施設の被害状況や二次災害の危険性を把握するとともに、通行止めや応急復旧等の必要な措置を速やかに講じることで、県民の安全・安心を確保しているところです。現在では、災害時及び防災業務の土木・建築関係の応援に関して、貴センターを含む計36の団体と応援協定を締結し、災害調査や復旧作業等にあたっていただいております。自然災害が頻発する中、官民が連携した迅速な災害対応がますます重要となっております。引き続き、御支援くださるようお願いいたします。

本年6月に花角新知事が就任し、「住んでよし、訪れてよしの新潟県」を目指すために、「安全に安心して暮らせる新潟県」、「活力ある新潟県」を実現するとしています。土木部としては、貴センターに御支援をいただきながら、防災・減災対策やきめ細かな公共事業などを推進し、将来にわたって安全に安心して暮らすことができ、併せて魅力があり住みやすく暮らしやすい新潟づくりを進めていきたいと考えております。

今後とも貴センターにおかれましては、建設技術の豊富な知識と優れた組織力を活用して様々な活動を行うことにより、地域の安全や活性化に寄与していただくことを期待するとともに、皆様のますますの御発展を心から祈念いたします。

## NPO法人にいがた地域創造センターと連携した 地域を支える建設産業の底力発信事業



# 身近な社会資本の見学会

新潟地域振興局 地域整備部長 山ノ内 久

建設産業は、暮らしを災害から守り、いつでも快適で豊かに暮らすことができるよう重要な役割を担っている本県の基幹産業です。県では、「地域の守り手として輝き続ける産業」を目標に掲げ、建設産業への理解向上に向けた情報発信など様々な施策を展開している他、入職促進にも取り組んでいるところです。

当部ではその取組の一つとして、将来の建設産業を担う工業系の高校生により深く建設産業を知ってもらうため、平成25年からNPO法人にいがた地域創造センターと連携し、「身近な社会資本の見学会」を開催しています。今年も、9月19日（水）に開催し、新潟県立新潟工業高等学校土木科1年生40名に参加して頂きました。

最初に建設産業全体の役割と魅力を紹介し、その後通船川の成り立ちと山の下閘門排水機場の役割についての座学を行いました。山の下閘門排水機場は、ゼロメートル地帯が広がる通船川流域を水害から守るため、ポンプ排水により通船川の水位を管理するとともに、2mの水位差がある信濃川と通船川の舟運を確保するため、閘門機能を備えた防災と地域経済活動を支える施設です。生徒のみなさんから多数の質問を頂き、興味を持って熱心に座学を聞いていた様子が見受けられました。



現地見学の山ノ下閘門排水機場では、小型船に分乗し実際に閘門を通過することで2mの水位差を体感しました。生徒のみなさんは、その高低差に驚き、排水機場の役割と重要性を実感していました。また、新潟市の協力により見学させて頂いた新潟中央環状線（黒埼工区）道路改良工事の現場では、先輩技術者との意見交換も行われ、道路という身近な社会資本の役割と必要性の他、建設産業の魅力を感じていたようです。

参加された生徒のみなさんには、このような見学会を通して、社会資本の役割や建設産業の魅力と重要性について十分に理解し、将来、土木技術者を目指してくれることを期待しています。

最後になりますが、見学会の企画・運営をしていただいた、にいがた地域創造センターの皆様にお礼を申し上げますとともに、今後の益々の御発展をお祈りいたします。



## 見学会を振り返って（事業部）

### ■ 教師の感想

#### 「身近な社会資本見学会」に参加して

新潟工業高等学校土木科 高村 俊洋

#### (1) はじめに

本校に異動して2年目。予てから先生方に、「通船川の見学と山の下閘門乗船体験は、新潟を知る上で素晴らしい見学会だ。」と聞いており、今年度1学年の担任ということもあり、初めて参加させていただきました。また、入学して間もない1年生は、

1学期に1度現場見学会を実施し、今回が2度目の見学会です。将来、建設業を担う上で必要な職業観を養い、身近な土木構造物が我々の生活にもたらす影響力を知る良い機会と期待し、実施当日を迎えました。

#### (2) 地域振興局での室内学習

県土木部監理課及び新潟地域振興局様より「建設産業の役割」と「通船川の成り立ちと山の下閘門排水機場について」というテーマで講義をして頂きました。生徒は、新潟県内の建設業を取り巻く状況、特に就業者の年齢構成には関心を示し、自分たちの世代が期待されていることを肌で感じていました。

また、新潟地域にはゼロメートル地帯が広がっていること、強制排水するために新潟市内に87か所もの排水機場やポンプ場が設置されていて海面下を意識せずに暮らせるようになっていくことに驚きを隠さない様子でした。



### (3) 通船川・山の下閘門乗船体験

私たちが普段何気なく生活している新潟市は、海拔ゼロメートル地帯が広がり過去に様々な災害に見舞われてきたその歴史と、山の下閘門排水機場が持つ役割を理解する上でとても参考になる見学でした。生徒も通船川と信濃川との2m以上もある水位差を



体験し、水運としての機能や私たちの生活の安全に欠かすことのできない土木構造物であることを感じていました。

### (4) 主要地方道新潟中央環状線道路工事見学

北陸自動車道黒埼パーキング脇の新潟中央環状線（仮称）北陸道跨道橋の工事見学では、まず工事概要を説明して頂いた後、高さ10mの盛土の最上部に上がり、改めて詳細について説明をして頂きました。生徒は10mという盛土のスケールに驚いていましたし、そこから見る新潟平野は黄金色で素晴らしい景色でした。その後、建設現場で働く魅力ややりがいについて企業の皆様からお話をして頂き、多くの質問も交えて意見交換をさせて頂きました。将来、新潟中央環状線道路を使用したときに、今回の現場見学を思い出すことでしょう。



### (5) おわりに

新潟市における土木事業に関わる歴史に触れ、土木行政の動きや課題を知り、土木構造物が持つ役割に気づく、非常に充実した見学会でありました。今回の見学会を機に、生徒が「土木」に興味を深め、就業意識の向上と就職希望者の増大に繋がるよう学校現場でも指導に努めて参ります。

最後となりますが、今回の見学会を企画・運営をしていただきました新潟県土木部監理課、新潟地域振興局、にいがた地域創造センターの皆様には改めてお礼を申し上げます。

## ■ 生徒の感想

〈「見学会レポート」より〉

- 全体を通しての感想は、普段の生活で当たり前だと思っている橋や道路などもたくさんの人が苦勞して造り上げていることを見つめ直せるいい機会になりました。

橋や道路なども造って終わりではなく、構造物も人間と同じで歳をとるので点検や修繕を行わないといけないことが分かりました。



この見学を通して土木の魅力がとても良く知れたので、今後もいろいろな所に目を付けてそれが当たり前と思わずにどのようにして造っているのかを考えながら生活することが大事だと思いました。最後に、現場や船などのとても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

- 全体を通しての感想は、土木の発展は人々のためにとって貢献していると感じました。道路見学会は、地域の活性化などに役立っており、災害からの対策も立てられており人々が安心・安全に過ごせるように考えられていると思いました。

排水機場は川の水位を保ち水害を防ぎ人々の生活を守る役割を果たしていると思いました。これらのことはあまり人々から知られてはいませんが、大切なことであり、裏方で人々の生活を支えています。もっとこの事がいろんな人に知られその場所、物などの大切さなどが広まれば良いと思いました。



## ■ 受託者の感想

今回は、建設中の現場を新潟中央環状線「黒埼工区」にし、現場で働く人（若手技術者）と意見交換を行い、我々の生活・暮らしの安全安心を守る建設産業の魅力と重要性、また、そこで働く人から土木技術、魅力などを聴くことにより、「担い手」の重要性や土木事業に関わるやりがいや魅力をアピールすることがポイントでした。

意見交換では多くの質問が出され、生徒からの見学会レポートにも「土木の魅力がとても良く知れた。」「土木は人々のために貢献している。」など、



記されており、今回の事業が今後の建設産業への担い手確保・人材育成支援に有意義であったと考えております。

# 「第6回 地域懇談会 in 上越」活動報告

事業部

地域へ出向き当法人をPRする地域懇談会を、今年は「第6回地域懇談会 in 上越」として、平成30年10月25日（木）に正会員36名、賛助会員17名、県関係者22名、一般参加者17名の総勢92名で開催いたしました。

鈴木理事長の挨拶から始まり、星野事業部長から当法人の設立趣旨や事業活動と、一般参加者の賛助会員への入会と支援をお願いしました。次に「上越地域の主要事業」と題して上越地域整備部長の荻原寿彦氏から、管内で工事中の「上信越道4車線化」「地域高規格道路・上沼道」「都市計画道路・黒井藤野新田線」「儀明川ダム建設」等について進捗状況をご講演いただきました。最後に「電気が創った



上越近代化物語」を地元在住の西山耕一氏よりご講演いただき、改めて上越地域の化学工業発展が、関川水系の電源開発の歴史そのものであり、先人の知恵と努力に感動いたしました。

締め括りの懇親会は85名の参加を得て、奥野副理事長、大野上越地域振興局長の挨拶、上越地域測量設計業協会・佐治会長様の乾杯で始まり、有意義で和やかな意見交換の場となりました。参加頂きました、上越地域振興局管内地域機関、正会員、賛助会員及び一般企業の皆様に厚くお礼申し上げます。



## にいがた「道」フォトコンテスト

にいがた「道」フォトコンテスト実行委員会事務局（新潟県土木部道路建設課）

道路は、県民生活及び経済活動を支える最も重要なインフラ施設であり、日常生活に欠かすことの出来ない存在です。一方で道路は利用者にとって当たり前前の存在となっており、道路の整備や維持修繕等の道路事業に対する関心は高いとは言えない状況です。

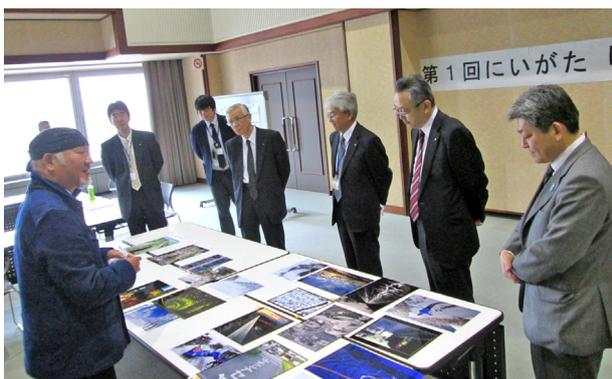
そこで新潟県では、道路が果たす役割を道路利用者に再認識してもらうとともに、道路への関心を高

めてもらうことを目的に、「第1回にいがた『道』フォトコンテスト」を実施しました。

県内の「道」を題材に平成30年8月1日から10月31日まで募集を行い、227名から657点もの多数の応募をいただきました。応募作品は一般道路の交通状況写真から普段利用している生活道路、農道、大規模構造物の橋梁など幅広い作品の応募があり、道路の魅力を表現する写真が数多く寄せられました。

11月15日には写真の専門家を交え、審査会を開催し、最優秀賞を含む合計22点の入賞作品を選定しました。今後は、入賞作品の展示会を行うなど、引き続き、道路のPRを実施していく予定です。

最後にフォトコンテストの実施にあたり快く賛同いただきました、NPO法人にいがた地域創造センターをはじめ、関係団体の皆様に御礼申し上げますとともに、貴センターの今後の益々のご発展を祈念いたします。



# 活動状況報告

(平成29年11月～平成30年10月まで)

## 平成29年

- 11月14日 第5回 地域懇談会 in 新津 (キャトルセゾン)  
・講演1：  
「主人の命を二度救った村松の忠犬タマ公」  
山川 栄 (南木 均) 氏  
・講演2：  
「新津地域整備部における土木行政について」  
新潟県新津地域整備部長 長谷川文麿 氏  
・参加者：50名

- 11月15日 第57回 理事・監事会議  
・平成28年度決算  
・平成29年度予算(案)  
・定款の変更

- 12月15日 第58回 理事・監事会議  
・平成29年度総会資料の確認

- 12月15日 平成29年度 通常総会 (新潟東映ホテル)  
・平成28年度事業報告及び収支決算の承認  
・平成29年度事業計画及び収支予算(案)  
・定款の変更  
(正会員274名、うち出席者110名)

- 12月15日 講演会及び懇親会 (新潟東映ホテル)  
・講演1：  
「生涯現役 楽しく暮らす  
～生涯学ぶ、その結果を社会に還元する～」  
新潟医療福祉大学 教授 石上 和男 氏  
・講演2：  
「最近の土木行政について」  
新潟県土木部 技監 中田 一男 氏



## 平成30年

- (4月～9月) 河川情報モニター [受託事業(新潟県土木部)]  
(通 年) 都市公園情報モニター [受託事業(新潟県土木部)]

- 2月14日 河川情報モニター地域担当者会議

- 4月29日 第31回 新潟県都市緑花フェア(新潟県スポーツ公園)で記念植樹

- 5月18日 建設技術センター主催 けんせつセミナー2018  
「初任者技術研修」「災害復旧(1)」に講師派遣

- 5月21日 第59回 理事・監事会議  
・今年度の事業活動  
・いがた道フォトコンテスト(仮称)協賛の決定  
・河川情報モニターの経費改定

- 5月29日 新潟県土木部職員研修「災害復旧(模擬査定)」に講師派遣

- 5月30日 都市公園情報モニター担当者会議

- 6月7日 新潟県土木部職員研修「河川計画」に講師派遣

- 6月15日 新潟県土木部職員研修「指導者(課長)-地域が期待する課長職」に講師派遣

- 7月11日 いがた道の研究会 第16回トーク会 (新潟会館) [支援事業]  
・講演1：  
「新潟県の道路を巡る最近の話題2018」  
新潟県土木部道路建設課長 金子 法泰 氏  
・講演2：  
「他人事でない空き家の話  
～みんなで考える空き家対策～」  
新潟市環境政策課住環境整備室主査 森内 昭光 氏  
・参加者：62名

- 7月13日～7月23日(万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業) パネル展「登録有形文化財万内川石積堰堤群等」(道の駅 あらい くびき野情報館) [支援事業]  
・入場者：477名

- 8月11日 万内川砂防公園サマーフェスティバル (万内川砂防公園) [支援事業]  
・入場者：1,261名

- 9月19日 「身近な社会資本の見学会」 [受託事業(新潟県土木部)]  
・対象者：新潟工業高校土木科1年生 生徒39名  
① 身近な社会資本の役割、建設産業の役割、担い手育成を学ぶ  
② 既存の社会資本見学 (乗船体験：山の下排水機場、通船川)  
③ 建設中の社会資本見学 (新潟中央環状線 黒埼工区道路改良工事)

- 10月3日 第60回 理事・監事会議  
・地域懇談会 in 上越の開催  
・役員(理事・監事)交代人事  
・支援事業に対する補助

- 10月25日 第6回 地域懇談会 in 上越 (デュオ・セレツソ)  
・講演1：  
「上越地域整備部における土木行政について」  
新潟県上越地域整備部長 荻原 寿彦 氏  
・講演2：  
「電気が創った上越近代化物語」  
西山 耕一 氏  
・参加者：83名

- 10月26日 新潟県土木部職員研修「危機管理広報(クライシスコミュニケーション)事例紹介」に講師派遣

# 河川情報モニター実施報告

企 画 部

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動も、平成18年の開始以来13年目となりました。平成30年は、146名（延べ491名）の会員の皆様のご協力により、4～9月で4回程度128河川の巡視を無事に行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化、一部地域での会員数の不足など、いくつかの課題を抱えており、今後の活動に影響が出ないような工夫が必要になっております。会員の皆様におかれましては、ふるさと貢献など地域を越えたご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

## ■平成30年（4～9月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長 (km)	NPO 配置人員	NPO実施回数 延人員
	主任	副任				
村上	高橋 一男	伊藤 勝夫	9	13.4	5	12
新発田	渡邊 秀美	鈴木 輝正	1	27.0	10	36
新津	武田 光男	佐藤 俊治	32	118.0	19	69
津川	伊藤 恒彦	井上 宏	3	17.8	3	9
新潟	高橋 英一	村木 昭一	6	45.6	12	12
巻	佐藤 敦	渡邊 和敏	7	138.4	13	43
三条	高柳 寿光	星野 正三	12	107.4	8	32
長岡	吉野 利夫	新保 弘	9	116.8	30	114
与板	吉野 利夫	新保 弘	3	47.0		
小千谷	吉野 利夫	新保 弘	6	37.8		
魚沼	小幡 利永	磯部 剛	2	36.4	4	16
十日町	井口 久雄	樋口 利幸	10	105.2	9	27
南魚沼	中澤 淳一	柄沢 安衛	3	30.6	4	13
柏崎	二宮 優	野中 孝次	2	34.4	4	12
上越・上越東	上原 正雄	江口 正芳	9	137.3	15	61
糸魚川	江口 正芳	上原 正雄	3	40.6	4	11
佐渡	佐々木敏和	小鷹 賢正	11	56.0	6	24
	計		128	1,109.7	146	491

# 都市公園情報モニター実施報告

企 画 部

県では、平成19年より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年からボランティアとして参加しており、おおむね年4回モニター報告をしています。

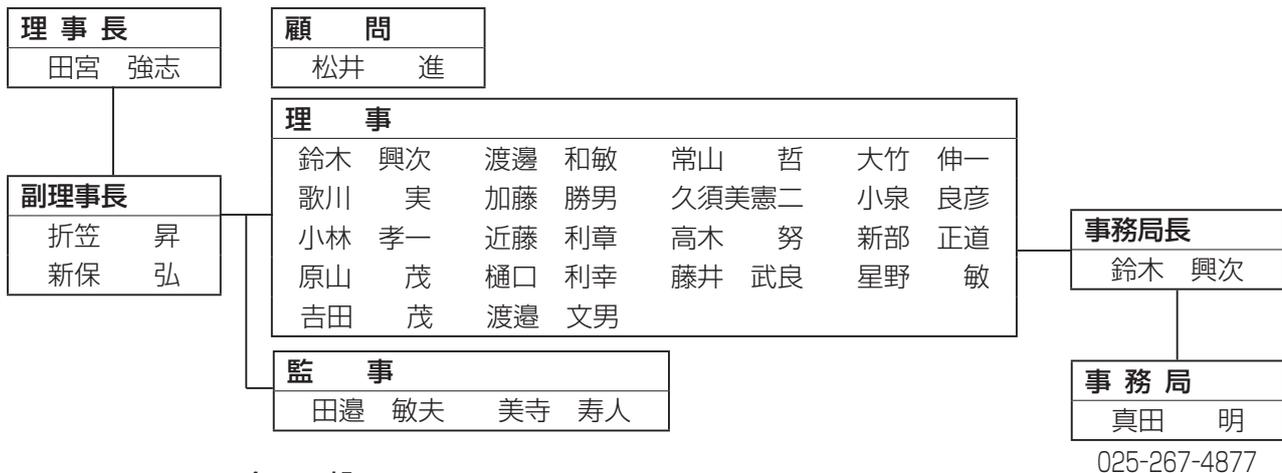
## ■平成30年 都市公園情報モニター担当者

公園名	担当者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	古嶋 秀一	白石 光夫
聖籠緑地・島見緑地	佐藤 敦	樫内 睦夫
鳥屋野潟公園女池・鐘木地区	高木 努	阿部 高次
スポーツ公園北地区	村木 昭一	田中 明
スポーツ公園南地区	吉田 茂	原山 茂
県立植物園	湯田 寛	笹川 栄
大潟水と森の公園	諏訪部 豊	金子 進

当NPO法人の役員は下記のとおり改選されました。(任期2年)

なお、併せて各部員は次のとおりとなりました。

◆ **組 織 図** (理事21、監事2)



**各 部** (○部長 ○副部長)

<b>総務部</b>	○鈴木 興次 歌川 実 小林 孝一 高木 努 星野 敏 ○新部 正道 今井 英伸 高橋 亮一 外山 晃 星野 正三
<b>企画部</b>	○渡邊 和敏 原山 茂 小泉 良彦 渋谷 吉則 ○吉田 茂 高柳 寿光 田邊 一喜 中野 俊
<b>事業部</b>	○常山 哲 樋口 利幸 渡邊 文男 林 和敏 ○藤井 武良 村木 昭一 乙川 秀夫 田中 明
<b>広報部</b>	○大竹 伸一 近藤 利章 加藤 勝男 高橋 英一 ○久須美憲二 鈴木 義朗 立川 達生

## 会員の動向

〈会員数〉

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成23年度 H23.12月	平成24年度 H24.12月	平成25年度 H25.12月	平成26年度 H26.12月	平成27年度 H27.12月	平成28年度 H28.12月	平成29年度 H29.12月	平成30年度 H30.12月
正 会 員	164	292	293	296	298	298	280	274	277
賛 助 会 員	個人	—	1	1	1	1	1	1	1
	法人	—	152	152	156	156	157	158	162
計	164	445	446	453	455	456	440	433	440

## 編集後記

お忙しい中、ご寄稿いただきました皆様、大変ありがとうございました。

今年は、水害、地震、台風などの自然災害が発生し、全国各地に大きな被害をもたらしました。また、役員改選も行われ役員、部員の刷新が図られました。

退任する鈴木理事長以下各理事、監事、部員の皆様ご苦労様でした。今後は、田宮新理事長の下、新役員、部員の皆様には、今までの実績を踏まえ新たな感覚で当センターをさらに発展させて頂けることを期待しております。(T.I)



特定非営利活動法人(NPO法人)

にいがた地域創造センター

理事長 田宮 強志

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18  
(一財)新潟県建設技術センター内3階  
TEL/FAX (025)267-4877